

教育相談室の窓から

地震、台風、豪雨、暴風…と何とも荒々しい天候が続く日本列島ですが、それらがもたらす甚大な被害への不安が社会を覆い、人心を惑わせて、犯罪の多発や低年齢化、大事故の多発などを引き起こしているような気がします。

教育相談室では諸般の事情により、もともと週5日実施していた相談日が、ここ何年かで現在の週3日になって、相談数は半減しましたが、以前と変わらず、一つ一つの相談はとても重く、大変な内容が多いです。

それでもじっくり話を聞いていくうちに、相談者の気持ちが開放され、少しでも元気を取り戻して、前を向いてくれることが多いのがうれしいです。

今年はお子さんと一緒に来室される方が多く、保護者とともに子どもの持つエネルギーの強さや賢さに感動できた相談がいくつかありました。

いじめから不登校になったという中学生。お母さんと一緒に来室しました。保護者同伴で話をするのと、一人で話をするのとどちらがいいか、尋ねるのですが、初回はほぼ同伴を求め、二回目以降は一人で話すというケースが多かったです。この子もそうでした。

保護者の方がいると、子どもは、保護者に話させようとしたり、何かを言うときには保護者の反応を伺ったりしますので、保護者の方には、黙ってそばにいてくれるように頼みます。

長い沈黙も入れて、30分ほど話を聞くと、だんだん自分の言葉で言えるようになり、時には涙ぐんだり、笑ったり、感情を交えて話せるようになります。その時にはもう、来室した初めのころに比べると、別人のように表情が生き生きしてきて、自分から「こうしたい」「こんな風になりたい」と言えるようになってきます。

それを「いい考えだね」「あなたならできるよ」と後押しすると、その後は、相談室にアクセスすることはなくなります。相談の必要がなくなるからです。このケースも、自分で答えを出し、今後の方向性を見つけて、笑顔で帰っていきました。これからもつまずくたびに、こうして自分で答えを見つけていくことでしょう。

